

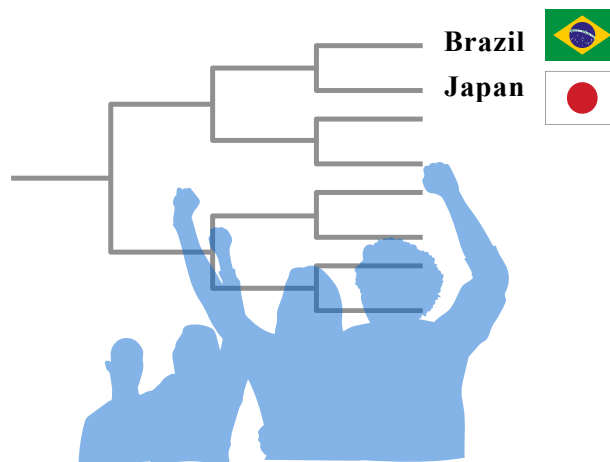
ヒューストンで感じたブラジルの熱と日本の誇り ーワールドカップ日本対ブラジル戦観戦記ー

JETROヒューストン所長 島田英樹



6月29日

2026



「ここは本当にヒューストンなのか」

スタジアムへ向かう途中、そんな錯覚を覚えた。視界を埋め尽くす黄色いユニフォーム、鳴り響くサンバのリズム、そして日本代表の青いユニフォーム。普段は車社会のヒューストンも、この日ばかりは世界中のサポーターが一つの方へ歩いていく「サッカーの街」だった。

ブラジル人は、試合前からすでに勝利を祝っているかのようなだった。Waterwall Parkでは太鼓を叩き、歌い、踊る。30℃を超えるテキサスの暑さなど気にも留めない。ヒューストン在住のブラジル人コミュニティは全米有数とも言われ、この日は家族連れも多く、街やスタジアム周辺はお祭りのような熱気に包まれていた。

一方、日本サポーターは対照的だった。歓声は負けていない。しかし、列に並ぶ姿や譲り合う姿、そして試合後に座席周辺のごみを拾う姿は、もはや「日本の伝統」として世界に知られている。今回も海外メディアやSNSでは、日本人を讃える趣旨の投稿が数多く見られた。

試合は押され気味ではあったが、日本はブラジル相手に臆することなく先制し、「勝てるかも」が何度も頭をよぎる。しかし、サッカー王国の底力はやはり本物だった。後半、そしてアディショナルタイムの劇的な決勝点。スタジアムの歓声は107デシベルを超え、ヒューストン開催試合の中で屈指の大音量だったと後日関係者から聞いた。

印象的だったのは、試合終了後。ブラジル人は知らない人同士でも肩を組み、歌いながら道を歩く。敗れた日本サポーターには涙ぐむ人もいたが、ブラジル人やアメリカ人から「Good game!」と声を掛けられると笑顔で握手を返す。その光景は、勝者と敗者というより、サッカーを楽しむ者同士の交流であり、勝敗を超えた熱狂や場の空気感、現地で観戦したからこそ感じられた得がたい経験だった。

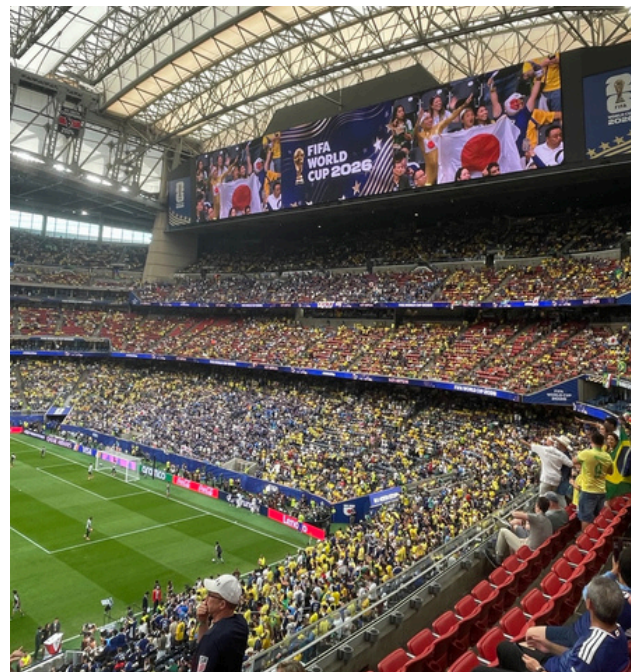
そしてもう一つ感じたのは、ヒューストンという街の懐の深さである。145以上の言語が家庭で話されると言われるなど、全米でも有数の多様性のある国際都市だからこそ、ブラジル人も日本人も自然に溶け込み、それぞれの文化を誇りながら同じ空間を楽しむ。普段はビジネスで世界とつながる私たちも、ワールドカップの期間はサッカーを通じて「世界都市ヒューストン」を肌で感じることができたのではないだろうか。

強豪国ブラジルを最後まで苦しめたサムライブルー。そして負けても礼節を忘れない日本人サポーター。「日本らしさ」は、技術や組織力だけではない。相手を尊重し、周囲に配慮し、静かに誇りを示す姿勢そのものなのだと少し誇らしくも感じた。

結果は悔しい。それでも、世界最高峰のブラジルを相手に堂々と戦う日本代表を、ここヒューストンで直接応援できたことは忘れられない。海外に暮らしているからこそ、ふと日本を強く意識する瞬間がある。この日、圧倒的黄色に染まったスタンドのなかで懸命に応援する青いサポーターを眺めながら、いつもより少しだけ日本を近くに感じ、スタジアムを後にした。



▲先制ゴールは日本 一瞬「勝てるかも」が頭をよぎる



▲情熱と礼節を持ち合わせているサポーターを誇らしく思います



2026年夏の新規購入本



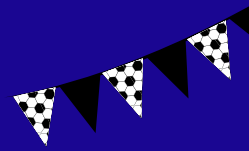
図書館便り



2026年夏の購入本が届きました。
皆さまのご来館をお待ちしております。



ヒューストン日本人会 FIFAワールドカップ 応援会レポート



2026年6月25日（木）、午後5時30分からメモリアル地区にある日本食レストラン“鯨陣”で、FIFAワールドカップ日本対スウェーデン戦の生中継観戦イベントが、日本人会主催で開催されました。当初20名の予定で準備していた個室は、日本チームジャージー姿の参加者であふれ、中に入り切れず、最終的にバーカウンターや追加テーブルも急遽占領して、34名となりました。



午後6時の試合開始時には「君が代」を皆で歌いました。それから“鯨陣”オーナーの中西さんご夫妻から“勝つ”の語呂合わせで特製の“串カツ”が皆さんに振る舞われ、皆で“カツ”と唱和して日本チームの勝利を祈りました。（中西さん、ご馳走様でした。）

試合が始まると、皆さんは食事もそこそこに、モニター画面にくぎ付けとなり、日本チームが攻めている時は「行け、行け」と歓声をあげ、スウェーデンに攻撃されると「アー!」と悲鳴をあげ、自分たちもサッカーをしているような気分になりました。

後半戦早々に、日本チームが先制ゴールを鮮やかに決めた時には皆が総立ちになり、拍手と大歓声でハイタッチの波、波、波。しかし、6分後のスウェーデンの鮮やかなシュートが日本ゴールに決まった時には、アーッという溜息の渦に皆さんが沈みました。

熱戦は1対1の引き分けとなり、日本チームは予選グループ2位で決勝トーナメントへの進出が決まり、集まって応援した甲斐がありました。次の試合場所はヒューストンです。喜びを胸に、最後に参加者全員で日の丸の前で記念撮影をし、三々五々の解散となりました。

参加者の皆様、お疲れさまでした。場所を提供してくださった鯨陣さん、ありがとうございます。日本人会ではこれからもいろいろな楽しいイベントを開催しますので、奮ってご参加ください。

日本頑張れ！Go, Japan!

〈幹事〉 Sally Sun



ヒューストンの今昔

Mitsubishi Heavy Industries America, Inc. (MHIA)

津久井 隆雄



2026年4月1日付で、私はMitsubishi Heavy Industries America, Inc. (MHIA) に着任し、再びヒューストンに戻ってまいりました。ヒューストンは私にとって単なる赴任地ではありません。50年前、小学生時代に両親、兄と共に過ごした思い出の地でもあります。当時の住まいは商工会の三水会センター近くにあり、異国での日々は、現在の私の価値観の礎となる貴重な経験でした。

約50年前のヒューストンは、航空宇宙やエネルギー産業を中心に発展していたものの、都市としての規模や利便性は現在ほどではなく、日本人にとって生活上の不便も少なくありませんでした。一方で、人々は温かく、異なる文化や価値観を自然に受け入れる包容力にあふれていました。私は英語を学ぶと同時に、アメリカ社会の多様性と寛容さを肌で感じました。この「人の温かさ」とコミュニティの結びつきは、時代を経ても変わらないヒューストンの魅力だと感じています。

現在のヒューストンは、医療、宇宙、ITなど多様な産業が集積する世界有数の国際都市へと発展しました。都市インフラは大きく整備され、かつて限られていた公共施設や商業施設も飛躍的に充実しています。久しぶりに訪れたWestheimer通りは、今も街の主要幹線としての存在感を保ちながら、周辺には新しい店舗や施設が立ち並び、都市の成長を象徴する景観となっていました。変わらないものと進化し続けるものが共存する姿に、ヒューストンの底力を改めて感じています。



私自身、三菱重工に入社して以来、ガスタービンの海外営業に長く携わってきました。その中で、米国市場の重要性は年々高まっています。2001年、当社は米国内でタービン・発電設備の販売、据付、サービスを担う拠点として、フロリダ州オーランドにMitsubishi Power Systems Americas, Inc.（現在のMitsubishi Power Americas）を設立しました。当初は比較的小規模な組織でしたが、旺盛な米国のエネルギー需要を背景に事業を着実に拡大し、現在では年間受注高約90億ドル規模にまで成長しています。ここヒューストンにも、一部補修やトレーニングに対応する設備を保有しています。

近年、脱炭素化の流れの中で、ガスタービンは再生可能エネルギーを補完する重要な電源として位置づけられています。さらに、水素混焼やCCUS（Carbon Capture, Utilization and Storage）などの新技術と組み合わせることで、その役割は一段と進化しています。エネルギー産業の中心地であるヒューストンは、次世代エネルギーの実装においても重要な拠点であり、当社にとって戦略的な意味を持つ都市です。



▲ガスタービン

燃料を燃やして発生した高温・高圧のガスでタービンを回し、発電などに使われる動力を生み出す装置

こうした背景から、私が再びヒューストンに戻ってきたことには、個人的な感慨に加え、事業面でも大きな意義があると感じています。幼少期に培った多様性への理解と、これまで積み重ねてきたエネルギー事業の経験を生かし、地域社会への貢献と当社のさらなる成長の双方に寄与していきたいと考えています。

50年という歳月は、都市を大きく変える一方で、その根底にある魅力や価値観をより鮮明にします。ヒューストンは今後もエネルギー転換の最前線として発展を続けていくことでしょう。その成長の一端を担えることに感謝し、この街とともに新たな歴史を築いていくことを楽しみにしています。

（米国三菱重工業 Chairman & CEO 津久井隆雄）

【現在のWestheimer通り】



※ほぼ同じ位置から撮影された当時のWestheimer通りとは、Reddit ([6200 block of Westheimer - 1983 : r/houston](https://www.reddit.com/r/houston)) 等で比較ください。



SANKYU USA INC

準会員 伊藤武さん



会社の業務内容について

Sankyu USAは、東証プライム上場企業である総合物流会社、山九株式会社の米国法人として1984年に設立され、今年で42年目を迎えます。本社はシカゴ郊外にありますが、ヒューストンをはじめ全米各地で物流事業および工場建設プロジェクトを手掛けています。

物流会社というとトラックや倉庫をイメージされるかもしれませんが、当社はそれに加え、日本企業が米国で工場を建設する際の大型機械や生産設備の国際輸送、搬入・据付・組立まで一貫して対応しています。近年は電池、自動車部品、半導体、エネルギー関連を中心に米国内での設備投資が活発化しており、テキサス州も多くの日系企業が進出する注目エリアとなっています。

当社は工場建設から操業開始後の物流、在庫管理、設備メンテナンスまで、物流とエンジニアリングの両面からお客様を支援していることが強みです。

ヒューストン、テキサスの印象

物流の観点からですと、ヒューストン港は重量物や大型・重量貨物の主要ゲートウェイとして機能しており、プラント設備や大型機械の輸送・据付を手掛ける当社事業との親和性が高い地域だと考えています。

また、ヒューストンは米国有数のエネルギー産業集

積地であり、石油・化学関連企業が数多く拠点を構えています。当社の主要顧客層である石油化学産業も多く、物流・建設・メンテナンス分野を含めて今後も大きな成長が期待できる、非常に魅力的なマーケットであると感じています。

個人的な関心事（趣味等）について

アメリカは車社会のため、できるだけ体を動かすことを日々心掛けています。気がつくと、運動と言えば駐車場とオフィスの往復だけという日も少なくありません。

そのため、体重管理も兼ねて定期的にマラソン大会へ出場しており、少しでも良い結果を出そうと、日々自宅のトレッドミルの上で汗を流しています。景色は全く変わりませんが、距離だけは確実に伸びています。

また、最近では長らくご無沙汰していたゴルフも再開し、スイング改善に励んでいます。ただ、シカゴは冬が長く、年間の半分近くはゴルフ場が実質休業状態です。そこで、冬はヒューストンへゴルフ合宿に行くという計画を立て、年間を通じてゴルフに取り組みたいと思っています。ヒューストンの温暖な気候を楽しみながら、皆様と一緒にご一緒にラウンドできる機会があれば嬉しく思います。

令和7年度（2025-2026）7月 商工会理事委員会議事録

日時：2026年7月15日(水) 12:15-13:30
 会場：三水会センター会議室
 出席者：17名（名誉会長1名、理事委員13名、理事委員代理3名）
 司会：東 遼佑 幹事

※詳細については商工会の「[会員専用ページ](#)」をご参照ください。

三水会クラブでは
ボランティアさんを
大募集しています。

三水会
クラブ

ご質問、お問い合わせは
281-493-1512
info@jbahouston.org





「Kicking It at Hermann Park」で 日本文化イベントを開催

この夏、日本庭園のあるハーマンパークで、世界中から訪れる人々を歓迎する特別イベント「Kicking It at Hermann Park」が開催されました。本イベントは、ヒューストンでFIFAワールドカップ関連試合が開催されることを契機に、ExxonMobilの協賛のもと、「文化」「コミュニティ」「スポーツ」が持つ、人と人をつなぐ力をテーマとして企画された無料の一般向けイベントです。会場となったのは、ハーマンパーク南西部に位置する「The Commons」。子どもたちの遊び場や憩いの場として近年整備された人気スポットで、ヒューストンならではの多様な文化や食、エンターテインメントを気軽に楽しんでもらうことを目的としていました。



▲DJによるJ-POPで盛り上がりました

開催期間は6月12日から7月5日までの週末および一部平日で、計15日間にわたり実施されました。期間中はライブ音楽やパフォーマンス、人気フードトラックによる飲食販売、屋外映画上映、サッカーをテーマにした体験型アクティビティなど、多彩なプログラムが提供されました。また、自然環境に親しむ企画や、ヒューストンの

多文化性を紹介する文化イベントも行われ、国際都市ヒューストンの魅力を発信する機会となりました。

日本庭園諮問委員会では、このイベントの一環として、6月27日と28日の両日、日本文化を紹介する音楽・踊りのプログラムを企画しました。

●6月27日（土）

DJ J-POP

沖縄太鼓グループ

Sound Box Dance Group

●6月28日（日）

DJ（ロサンゼルスより招聘）

Makoto Taiko Group（ロサンゼルスより招聘）

イベント詳細：

<https://hermannpark.org/event/kicking-it-at-hermann-park/>

本イベントの実施にあたり、以下の皆様よりご寄付・ご協賛をいただきました。

- ・ダイキン様：うちわ8,000本
- ・伊藤園様：日本茶2パレット
- ・Cole Chemical様：1,600ドル
- ・Gondo Family様：1,000ドル
- ・Yasuhiko

& Akemi Saitoh Foundation様：2,500ドル
（渡航費支援）

- ・USJC様：1,500ドル

初日の27日は、「The Commons」で予定どおりパフォーマンスを実施するとともに、日本庭園への寄付（1口5ドル）の呼びかけを行い、寄付をいただいた方へ日本茶とうちわを進呈しました。しかし、会場が駐車場から離れていたこともあり、人通りは比較的少ない状況でした。

そこで翌28日は、日本庭園入口近くのリフレクションプール周辺に場所を移して、パフォーマンスおよび寄付の呼びかけを行いました。日曜日ということもあり、多くの来園者が足を止め、テントには日本茶とうちわを受け取るための列ができました。来場者の皆様は、スマートフォンから日本庭園へ寄付を行い、その場で日本茶とうちわを受け取っていただきました。

たくさんの方
日本庭園への寄付に
ご協力くださいました。



ご協力
ありがとうございました。



thank you?

また、リフレクションプール前で行われた和太鼓の演奏には多くの観客が集まり、日本茶を味わいながら、あるいはうちわで涼を取りながら、その迫力ある演奏に見入っていました。スマートフォンで演奏の様子を撮影する姿も数多く見られました。



▲迫力ある和太鼓の演奏

さらに、翌日にヒューストンで試合を控えていたサッカー日本代表チームを応援するため、多くの日本人サポーターがファンフェス会場からハーマンパークにも足を運んでくださいました。小山総領事ご夫妻もお越しください、DJによるJ-POPの音楽と、力強い和太鼓の演奏が会場を盛り上げ、日本チームへの応援ムードが一層高まりました。



▲イベントボランティアとサッカーファン

最後に、本イベントの開催にあたりご支援・ご協力をいただきましたダイキン様、Yasuhiko & Akemi Saitoh Foundation様、Cole Chemical様、Gondo Family様、伊藤園様、USJC様に、心より御礼申し上げます。この2日間で、925ドルの寄付が集まりましたことを、併せてご報告いたします。

（日本庭園諮問委員会 佐藤暁子）

ハーマンパークに集まれ！

日程

9/12 (土)

9/13 (日)

ジャ
パン
フェ
スティ
バル
2026
ヒュ
ースト
ン



開催場所 ハーマンパーク

6100 Hermann Park Dr. Houston, TX 77030

多様な日本文化の魅力を発信する催しが盛りだくさん

- 相撲イベント／太鼓イベント
- 屋台（日本の食文化の発信）
- 日本人アーティストによるパフォーマンス
(PUFFY AmiYumi, Yano et Agatsuma)
- キッズ縁日ブース（商工会主催！）



キッズ縁日ブース

今年度も商工会がキッズ縁日ブースを主催いたします！
縁日らしい楽しい遊びを用意しているのでぜひお越し下さい！
隣接するチケットブースにてチケットを購入することで遊べます。
豪華景品多数！
※チケットはキッズ縁日ブースでしか使用できません。

キッズ縁日ブースのボランティア募集

- 本年も「キッズ縁日」ブースのボランティアスタッフ（16歳以上対象）を募集しています。
- ボランティアにご協力いただける方は、別途商工会メールにて配信する募集要領をご確認のうえ、「登録シート」に必要事項をご記入ください。※各企業ごとにとりまとめのうえ、ご登録いただく形式となっております。
- ボランティア証明書も発行いたします、ぜひボランティアの参加をご検討ください！

ジャパンフェスティバルヒューストンってなに？

- The Japanese Festival Houston, Inc.とヒューストン市およびヒューストン市公園・レクリエーション局の共催でヒューストン日米協会（JASH）が運営。ハーマンパークの日本庭園を広く紹介、宣伝する目的で1993年より開催している歴史あるお祭り。
- 全米で最も多くの来場者を集めるジャパンフェスティバルの1つです！（2025年は2日間累計で約8万人が来場！）



キッズ縁日ブース必要チケット数

金魚すくい	4 チケット
ヨーヨー釣り	4 チケット
スーパーボールすくい	4 チケット
輪投げ	4 チケット
ガラポン	2 チケット



チケットは事前購入をおすすめします

- 当日はチケットブースが大変混み合いますので、この機会に購入しておくと、大変便利です！（10チケット\$10）
- 購入方法等詳細は商工会会員向けに、別途メールにて配信いたします。※本チケットはキッズ縁日ブースでしか使用できません。
※購入後は返金・換金不可。また、祭り終了間際には、一部ブースで品切れが発生する場合がありますので、ご注意のほどよろしくお願いいたします。



光を集める！ 魔法のカラフル傘づくり

6月5日にあそぼーかい主催「夏休み特別企画」でゲスト講師としてお招きいただきました、クエスト認定マスターアートワークセラピストの込山真子です。

今回は「光を集める！魔法のカラフル傘づくり」をテーマに、光を透すカラーセロハンや様々な色や形の素材を使い、自分だけのオリジナル傘を作りました。



講師の込山真子さん（右）



イベントは、6月の日本を感じさせる「雨の音」に耳を傾け、雲の向こうの太陽に会いに行くというストーリーでスタート。工作が始まると、子供たちは素材選びから貼り付ける工程まで、よく集中して取り組んでいました。



全員が決まった色や形の素材を使うのではなく、今回は「自分で自由に選ぶ」ことに重点を置いたため、参加した未就学児から高学年まで、人によって使う色の種類や模様が全く異なる仕上がりになり、オリジナリティあふれる傘が完成しました。最後は懐中電灯で傘を照らし、壁に映るカラフルな光と影の美しさを存分に楽しみました。

貴重な機会をいただき、準備から運営まで、たくさんサポートしてくださったあそぼーかいの皆様、心より感謝申し上げます。

次回の読み聞かせ

9月8日（火）

時間：10時半～

場所：三水会図書館

予約：[商工会HP](#)から



第259回 肝臓がんに挑む免疫のしくみ

医師（現Houston Methodist Research Institute研究員）

古城 憲

皆様、こんにちは。神奈川県から来ました古城憲と申します。私は日本では消化器外科医として大腸がんの手術や化学放射線療法を専門としており、また肝臓の免疫細胞に関する基礎研究にも取り組んでいました。約2年前に消化器がんに対する免疫治療の研究を行うためにボストンのMassachusetts General Hospitalに留学し、1年前に研究室ごとヒューストンへ移ってきました。今回は、私たちの研究室のテーマのひとつでもある肝臓がんの免疫治療について、その面白さを少しでもお伝えできればと思います。

肝臓は免疫にブレーキをかけがちな臓器

肝臓がんの多くは、肝炎ウイルス感染や過度の飲酒、そして近年増えている脂肪肝など、長年にわたる肝臓への負担が積み重なって発生します。ここで興味深いのは、肝臓という臓器自体が、「免疫にブレーキをかけたがる臓器」だという点です。肝臓には毎日、腸から食べ物のかけらや腸内細菌の成分が流れ込んでくるため、いちいち免疫が過剰反応していたら、暴走して大変なことになります。そのため、免疫が過剰に反応しないよう、あえて抑えめに働く仕組みが備わっています。困ったことに、がん細胞はこの仕組みをうまく利用し、免疫細胞から身を隠してしまうのです。

免疫チェックポイント阻害薬

ブレーキを外すという発想

そこで登場したのが「免疫チェックポイント阻害薬」と呼ばれる薬です。私たちの体のT細胞、つまりがんを攻撃する免疫細胞には、暴走を防ぐための「ブレーキ役」のスイッチ（免疫チェックポイント）が備わっています。がん細胞はこのブレーキを悪用し、T細胞の働きを止めてしまいます。免疫チェックポイント阻害薬は、このブレーキを外し、T細胞に本来の攻撃力を取り戻させる薬で、肝臓がん以外にもさまざまながんに対して効果を発揮します。免疫チェックポイント阻害薬の登場は、これまでのがんに対する薬物治療を大きく進歩させました。進行した肝細胞がんに対しては、血管新生を抑える薬と組み合わせる治療法が標準治療として広く使われるようになり、これまで治療の選択肢が限られていた患者さんの生存期間を大きく延ばすことが分かってきました。近年では、2種類の異なる免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせる治療法も承認され、選択肢はさらに広がっています。

肝臓の「地盤」を見極める重要性

肝臓がんの治療をするうえで忘れてはならないのが、肝臓自体の状態です。炎症が長く続くと肝臓は徐々に硬くなり、肝硬変に至ります。肝硬変が進んでいる患者さんは肝臓の余力が少ないため、強い治療に耐えられなかったり、副作用が起きた際に肝機能が悪化しやすかったりします。そのため、治療方針を決める際には、がんの進行度と肝臓に残された機能の両方を慎重に見極める必要があるのです。

さらに近年の研究では、同じ肝細胞がんでも、肝炎ウイルスが原因の場合と脂肪肝が原因の場合とで、免疫治療の効き方に差が出る可能性が指摘されています。脂肪肝を背景に持つ肝臓では、特定のT細胞が過剰に活性化し、本来がんを攻撃すべき免疫細胞が、かえって肝臓組織を傷つける方向に働いてしまうことがあるというのです。患者さんによって薬の効果に差が出る理由を説明する手がかりとして、注目を集めています。

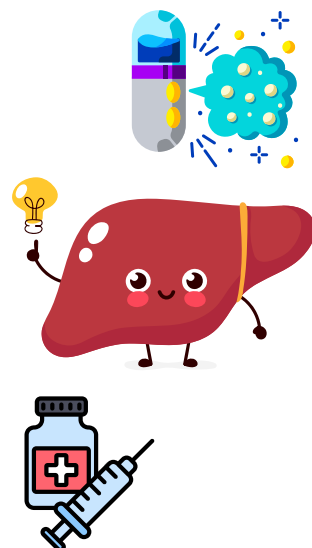


新しい治療法

局所治療とナノ治療

最近の新しい治療法として注目されているのが、カテーテルでがんへの血流を止める局所治療（TACE）と、免疫治療を組み合わせるアプローチです。局所治療でがん細胞が壊れると、がんの目印となるタンパク質が放出され、免疫細胞の攻撃のスイッチを入れるきっかけになると考えられています。実際、国際的な大規模臨床試験では、TACEに免疫チェックポイント阻害薬と血管新生阻害薬を併用することで、TACE単独と比べてがんの進行を抑える効果が有意に高まることが示され、今後の標準治療を変える可能性があるとして注目されています。

さらに、薬剤やmRNAというたんぱく質の設計図である遺伝子をナノサイズのカプセルに包み込み、がん組織にだけ効率よく届ける「ナノ治療」も研究が進んでいます。正常な肝細胞への負担を抑えながら、がん組織にピンポイントで薬剤を届けたり、mRNAを送り込んでブレーキがかかったがん周囲の免疫環境を改善させる分子を現場で作りに出したりすることで、安全で高い治療効果が期待されています。私たちもポストン時代から共同研究者と取り組んでいるテーマで、免疫チェックポイント阻害薬と組み合わせることにより効果的で安全に使える治療法の開発を目指しています。



おわりに

肝臓がんの治療は、この10年で大きく様変わりしました。免疫のブレーキ役の発見と、そのブレーキを外す免疫チェックポイント阻害薬というアイデアが、世界中の患者さんに新しい道を開いたこととなります。さまざまな免疫チェックポイントが見つかってきており、それらを標的とした治療法の研究が世界各地で進められ、効果が期待されています。テキサス・メディカルセンターでも、免疫治療や関連する基礎研究に取り組む研究者が数多く集まっており、日々活発な情報交換や共同研究が行われています。

今回は、Houston methodist の同じ研究室の宮崎健人先生です。前回の安藤先生と3人でポストンから引っ越してきて苦労を共にしてきました。同じく消化器外科医で膵臓がんの研究をされています。私よりも若いですが頼りになるのでいろいろ教えていただいています。サッカーが大好きでものすごく詳しいので、聞けばなんでも教えてくれます。



バックトゥースクール セミナー第2弾

新学期、こんな「モヤモヤ」や「不安」はありませんか？

学校の準備はこれで本当に大丈夫？
慣れない環境に飛び込む子供のストレスが心配
親自身のケア失敗から学ぶ姿勢の大切さ

一人で悩まなくても
大丈夫です

日時：9/17（木）

10:00～12:00

（開場 9:30/ 閉会 12:30）

場所：三水会センター会議室

参加費：無料 対象：大人

詳細・お申込みは商工会のHPから

講師/心理セラピスト：小島理絵先生



三水会
クラブ



あの決断の答え

～ピアスとおやつと名言から
始まったアメリカ生活～



「ガルフストリームの執筆依頼来てで」と夫に言われ、何を書こうか悩みました。初めての海外生活で驚きの連続だった2年間。書きたいことは山ほどありますが、夫の赴任が決まってから帯同を決断するまでの日々と、その後の娘たちのことを書いてみたいと思います。

3年前の夏、長女が中学3年生、次女が中学1年生の時に夫のヒューストン赴任が決まりました。もちろん家族会議をしました。娘たちの反応は冷やかでした。「私たちは絶対に行かない。学校も部活も楽しいし。パパ一人で行けばいいじゃん」。過去に何度も夫の単身海外赴任を経験していた私は、家族が離れて暮らす寂しさをもう十分に味わってきました。同時に、これは娘たちの世界が広がるチャンスだとも感じ、今回は帯同推しでした。

中学生ともなれば、無理やり連れてきてもうまくいきません。自分で納得し決断してほしいと願いますが、誰に似たのか2人とも頑固で考えは変わりません。しかし、このチャンス、母も諦めません。一足先に10月から単身赴任を始めた主人の元へ、冬休みに母子3人で遊びに行く計画を立てました。ヒューストンパスで楽しみ尽くし、日本食を味わい、治安の良さや住みやすさを体感してもらおうと、少しずつ娘たちの心が揺れ始めました。よし、ここが勝負！「アメリカの学校は髪型も服装も自由。ピアスも開けられるよ。おやつも持って行けるよ!」。ピアスとおやつで、次女はつれました。いっちょあがりです。

強敵は長女でした。高校への進学を控え、ザ・青春の楽しい毎日が待っているはずの15歳にとって、異国へ渡る決断は簡単ではありません。私自身、これが正しい選択なのか確信を持てずにいました。しかし旅行の後、長女が言ったのです。

「アメリカに行ったら、来るんじゃないかって後悔するかもしれない。でも、今行かなかったら、もっと後悔する気がする。だから一緒に行く!」。

——おお！名言でた！！



第262回
ヒューストン日記
水田 晶子 さん



こうして翌夏から家族揃っての駐在生活が始まり、この夏で丸2年が経ちます。本当にいろいろなことがありました。娘たちの涙も何度も見ました。母の日や誕生日にもらった手紙で本音を知り、私も何度も泣かされました。日本では「帰国子女」という言葉はキラキラして見えたんですが、その裏にはこんなにも苦労と葛藤があるのだと知りました。

今では、たくましく生き抜いてきた娘たちを、心から尊敬し、誇りに思っています。長女はこの夏から最上級生の12年生。世界と選択肢が広がりすぎたからか、次の進路に絶賛悩み中です。しかし、その贅沢な悩みに向き合う姿、毎朝ウキウキとおやつポーチにおやつをめいっぱい詰め込む次女の姿、そして2人の耳で輝くピアスを見ながら、あの時の決断はきっと間違いじゃなかったと、そんなふうに思う今日この頃です。



Houston Choir SAKURA



Music : The Beautiful Useless Thing

～音楽は何の役に立つのか、テキサスで見つけた答え～

ヒューストンコーラス桜
ディレクター 戸田光彦

2008年に日本からアメリカに渡って以来、早いもので18年以上の月日が経ちました。ヒューストン・コーラス桜のディレクターの戸田光彦（とだてるひこ）と申します。渡米後はヒューストン・グラント・オペラにスポンサーになっていただき、現在はUniversity of Houstonのオペラの音楽スタッフとしてさまざまな活動を続けております。日本では、新国立劇場、二期会、読売日本交響楽団などの多くのオペラ公演に、Pianist/CoachまたはAssistant Conductorとして携わっておりました。

私はこれまで人生の大半を音楽という芸術に費やしてきましたが、音楽とは自分にとって、そして人々にとって何なのだろうと、しばしば考えます。一言で言うと、実は音楽とは何の役にも立たないものなのではないかと思っています、笑。ヒューストンには世界有数のメディカルセンターがありますが、音楽で病気を治せるわけではありません。また、この街では本当に多くの多国籍料理を楽しむことができますが、音楽でお腹が満たされるわけでもありません。また、最新のAIのように私たちの生活を便利にするものでもありません。では、なぜ“何の役にも立たない”音楽というものが存在するのでしょうか。

私は20年近く、音楽を通してテキサスで暮らしてきましたが、驚くことに、ここでは音楽をはじめとする芸術や教育に多くの力とお金が投じられています。この役に立たない音楽や芸術というものにどうしてそこまで力を投じるのでしょうか。そもそもそんな役に立たない音楽というものが、なぜこの便利な世の中になってもいまだに存在しているのでしょうか。何百年、何千年も昔か

ら、人間は戦争や困難の中にあっても、音楽や詩、文学、絵画といった芸術を諦めませんでした。どんなに苦しい時代にも、きっと人間は“美”というものを必死に守り続けてきたのではないかと思います。

人は本当に美しいものを前にすると言葉を失い、そしてその美しさを自分自身の人生に投影します。テキサスの美しい夕日を見て心が洗われる、または遠く離れた日本の家族や友人に思いを寄せる、亡くなった母にこの夕日を見せてあげたかったと思ひしのぶ。美しいものは、人それぞれの心にさまざまな思いや記憶を呼び起こします。生きるために食べ、食べるために働き、便利さだけを追い求める人生では、人の心は干上がってしまうのではないのでしょうか。同じ美しいものを見て、それを美しいと感じる人、それとは反対に無意味で役に立たないと感じる人、同じ人生でも、その生き方は、自分にはとても違って見えます。

ダラス、オースティン、サンアントニオには、私が調べた限り日本人コーラスはありません。しかしヒューストンには桜コーラスがあります。これまで、永住者、駐在員を問わず、多くのメンバーが入れ替わってきました。それでも活動を続けてこられたのは、ひとえに歌い続けてくれたメンバーと、支えてくださった多くの皆様のおかげです。小さな桜コーラスグループですが、その感謝とともに、これからも音楽を通して日本の素晴らしさをテキサスの皆さんに伝えていければと思っています。

桜コーラスでは新しいメンバーおよび
ピアニストを募集しています
見学・入会をご希望の方は
Facebook・Instagramにて活動内容をご確認ください♪



FaceBook



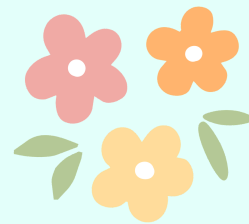
Instagram

サッカー日本代表にエールを送る
桜コーラスのメンバー。
音楽を通じて地域に笑顔と元気を
届けています。





海外生活、 ちゃんと自分を 大切にできていますか？



慣れない環境、言葉の壁

気づけば自分のことは後回しになっていませんか？

医師と一緒に整える心と体のウェルネス習慣

- ☒ なんとなく不調
- ☒ 体重増加・運動不足
- ☒ 気分の浮き沈み
- ☒ 孤独感・ストレス

講義＋体験セミナー
その場でできる
ストレッチ＆筋トレ実践

セミナー内容

- ・海外生活と体調不良
- ・続く運動習慣の作り方
- ・5分ストレッチ

参加申し込みは
商工会の

[ホームページ](#)から



日時：8/26（水）

10：00から1時間半ほど

場所：三水会 会議室

参加費：無料

※定員になり次第締切

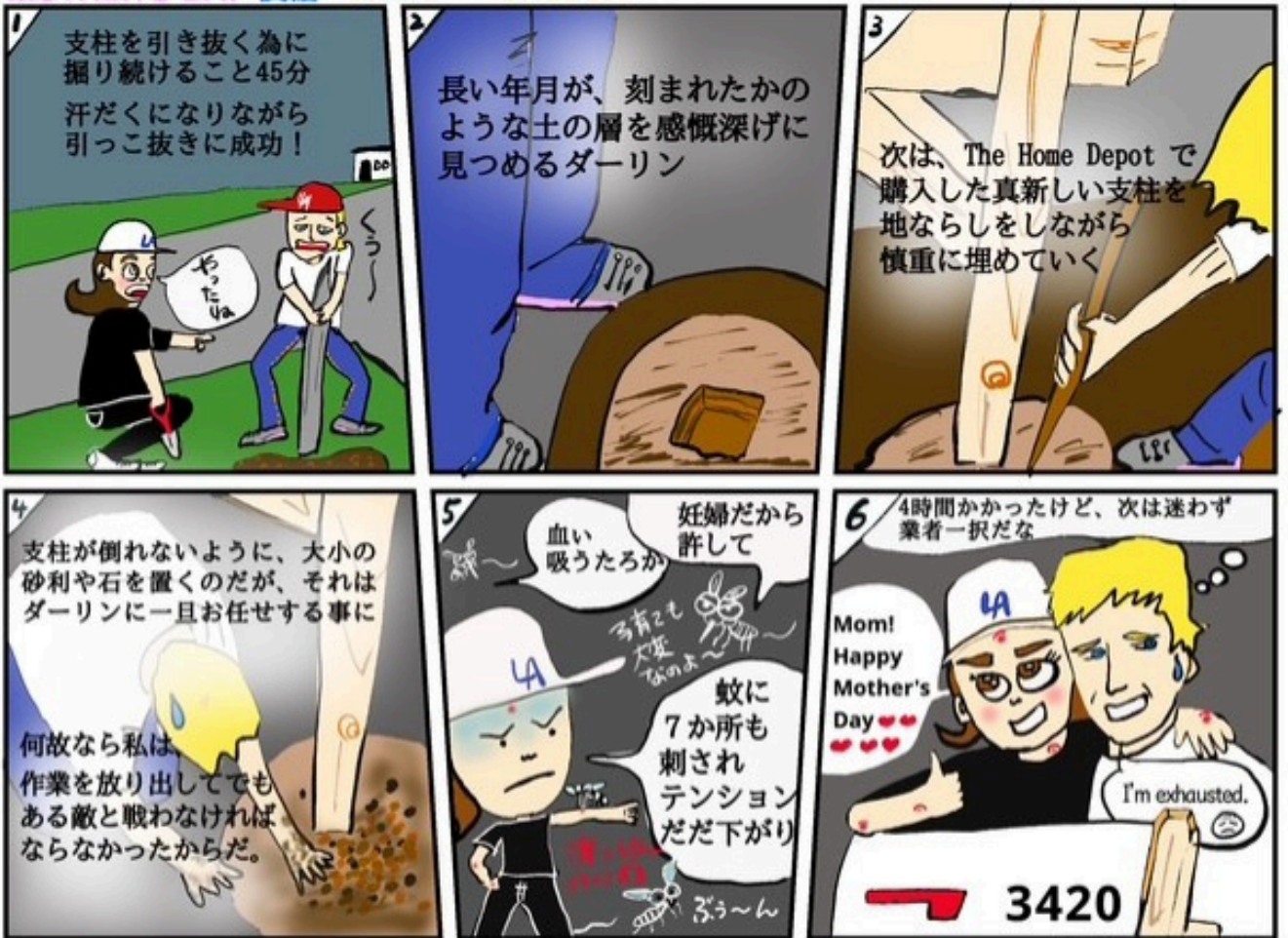
講師：茨木えり先生

医師 / トータルウェルネスアドバイザー
ヒューストン在住

No.175

ヒューストン
知っとな物語

BY KUMIKO



© KUMIKO

古本市のお知らせ

3冊で2ドル

8月22日(土)

10:00~

古本市をお手伝いくださる
ボランティアさんも大募集中

(ボランティア登録は商工会HPから)

古本市は定員制のため
ご予約は
商工会ホームページから



ご質問、お問い合わせは
281-493-1512
info@jbahouston.org



Houston Walker



イベント情報



■Aug. 23 - Sep. 13

[US Open @USTA Billie Jean King National Tennis Center](#)

毎年NY恒例のテニスUSオープン、日本勢はウィンブルドンでベスト8進出 & 白い着物ファッションが話題になった大坂なおみ選手が出場予定。試合の様子はESPN、ABCにて放送されます。

■Aug. 28-30

[Houston Mariachi Festival@ Brown Theater, Wortham Center](#)

マリアッチフェスティバル、全米ヒスパニック月間の9月をひかえ公演が開かれます。チケットは35ドルから。

■Sep. 4-7

[Jurassic Quest @NRG Center](#)

映画シリーズ第8作目も計画されているというジュラシック・パーク。実物大の動く恐竜や赤ちゃん恐竜に出会えるジュラ紀をテーマにしたイベントがやってきます。化石の発掘体験や、レゴプレイスペースもあり。

■Sep. 12-13

[Japan Festival Houston 2026@ Herman Park](#)

今月号ジャパンフェスティバル特集ページをご参照下さい。



■Sep. 13

[Houston Texans vs Buffalo Bills @Reliant Stadium](#)

夏の終わりと共にNFLシーズンが開幕します。Texansはプレシーズン戦でLas Vegas Raiders と対戦、レギュラー戦は9月13日にBuffalo Billsとの対戦でスタートです。



■Sep. 14

[Emmy Awards](#)

アメリカテレビ界で優れた番組などに送られる最大の祭典・エミー賞。HBO MAXによる医療ドラマ「ザ・ピット」が最多ノミネートしています。授賞式の模様は、NBC/Peacockにて中継されます。



■Sep. 26-27

[Tokyo X@ NRG Center](#)

アニメ、食文化、ライブパフォーマンスなど、現代のポップカルチャーと伝統を融合させた祭りTokyo X。コスプレ大会、武道や相撲、太鼓のパフォーマンス、書道、折り紙のワークショップなどが開催予定です。

■Sep. 30

[2026 Oita Japan Festival @ Austin](#)

オースティンと姉妹都市の大分市共催の夏祭りが行われます。ウクレレや太鼓のステージ、茶道や武道デモンストレーション、着物ファッションショーがあり、そのほか書道や日本遊びの体験、日本食販売など。

※内容は記事執筆時点の情報に基づいています。変更になる場合もありますので、お出かけ前に各自で最新の情報を主催者サイト等でご確認ください。(ファーガソンステガー 佐野仁美)

編集後記

夏本番を迎えたヒューストンでは、厳しい暑さが続いております。照りつける日差しに加え、突然のスコールも見られるなど、この地ならではの夏を実感する日々です。厳しい暑さが続く季節ですので、体調管理には十分お気をつけいただき、どうぞ健やかにこの夏をお過ごしください。

今夏、ヒューストンはFIFAワールドカップの開催都市として、世界中から多くの人々を迎えました。大会はスペイン代表の優勝で幕を閉じましたが、試合だけでなく、街中でさまざまな国のユニフォームを身にまとった人々を見かけるなど、ヒューストンならではの国際色豊かな雰囲気に包まれました。スポーツを通じて街全体が一体となった賑わいは、多くの人の記憶に残るものとなったのではないのでしょうか。

私自身、編集委員として3号目を迎えました。今月号では、ヒューストンの今と昔を見つめた寄稿や企業紹介、地域の交流を支えるイベントなど、さまざまな記事をお届けしています。誌面づくりを通して、地域で活躍される企業や団体、そして日本文化の発信や交流を支える方々の取り組みに触れ、このコミュニティが多くの方々の支えによって成り立っていることを改めて感じています。

これからも、ヒューストンで暮らす皆様にとって、親しみやすく、身近に感じていただける情報誌をお届けできるよう努めてまいります。引き続きご愛読のほど、よろしくお願いいたします。

(編集委員 野々村円香)

ガルフストリームは毎月15日発行です。

編集委員および投稿募集中！

問い合わせ先: sansuikai@jbahouston.org

ガルフストリームは、ホームページでも閲覧可能です。

<https://www.jbahouston.org/gulfstream/>

免責事項

掲載情報の正確性・安全性は保証しません。内容は更新等により変更・陳腐化する場合があります。掲載内容およびリンク先の利用に伴う損害について、当会は一切責任を負いません。リンク先は各運営者の責任であり、利用は自己責任でお願いします。

著作権等

本ニュースレターおよび記事の知的財産権は、ヒューストン日本商工会 (JBAH) または各執筆者に帰属します。権利者の書面許諾なく複製・配布・送信等を禁じます。許諾は JBAH info@jbahouston.org までご連絡ください。© 2025 Japan Business Association of Houston. All rights reserved.

発行：ヒューストン日本商工会
発行責任者：遠藤 宏治

編集委員長：伊藤 義治
構成・編集：ガルフストリーム編集委員一同